

暁の渚離りて

(昭和二十二年寮歌)

篠原昭壽君 作歌
竹内五男君 作曲

一
暁あかつきの渚なみぎさ離りて

ふるきもの光ひかりなきもの
底そこひなき海うみに抛なれば
いささけき水輪みなわが呼よばふ
想おもひ出での古ふるりし仕草しぐさに
告つぐるなりいたき別わかれを

二
永遠とことはに絶たゆることなく
ひたひたと寄よする波間なみまに
万象くさくさのよみがへりしを
はぐくみしなさけ忘れず
真実しんじつの旗幟きしを取り持もち
いゆくものひたあゆむもの

三
さあれ吾わが幸さちは希望のぞみは
ふたたび会あふ事ことなしと
燃もゆる火ひの炎立ほたちに消えぬ
あるはただ宿命さだめのみなる
さだめ故旅ゆゑたびを行くなり
いたましきいのちと云いはめ

四
小船をぶねもて浜伝はまつたひ行き
火ひの神かみの荒すさぶる山やまを
怖おそれみてかへりみすれば
たちまちに幻惑まどはしは裂さけ
くれなるの血潮ちしほなみ流れて
天地あめつちは夕焼ゆやけにけり

五
涯はてし知らぬ海うみさまよひて
い着つきしは辛夷こぶし咲く丘をか
友垣ともがきとあつく結むすびて
いたましき宿命さだめとかむと
ひたざまに立たちあへぐ夜半やは
静しづかなり星ほしは降おりつつ

六
溢あふれ出でる涙留なみだどとめて
丘高をまたかく秀ひいづる草くさの
友ともよ見みよ紅あけに映はゆるを
歡喜よろこびに充あてるそよぎを
春しゅん秋じゅうは移うつりて行ゆけど
睦むつびつつ耐たへてを行ゆかな